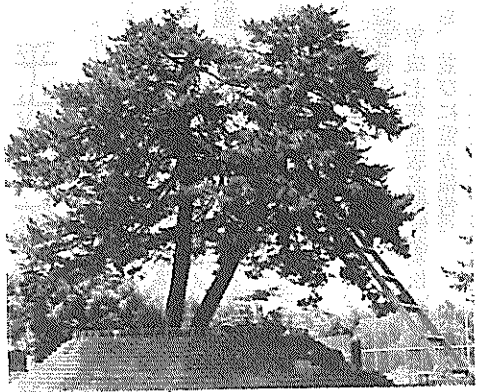


# 双松会会報

第17号(「双松会」通巻21号「松高北高同窓会報」通巻22号)

発行 松江市奥谷町164  
島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL ④4888-②0655  
印刷 有限会社 高浜印刷所 TEL ④3000



## 記念の年に

会長 兼 折 博



母校は今年創立一二〇周年を迎えた。歴史の古きでは、全国の高校中、十指の中に入るはずである。近年、学習でも教科外の活動でも、レベルの高い成績を残しつつあるのも頼もしい。

この度は、記念式典や行事の会場に「くにびきメッセ」が予定されている。旧川津校舎至近の地に、絶好の会場の建設されたこと、川津校舎から集立った会員が、全員の半数近いことなどからの決定であった。会員各位多教のご参加を、心からお待ちしている。さて、この一二〇年の間に、母校が数々の人材を世に送り出していることは、周知のことである。政治家、実業家、学者等様々だが、巷に生きるすぐれた宗家にも似た、非凡な生き方をした山本橋男氏のような人のあったこ

とも、忘れてはなるまいと思う。氏は大正一五年卒。四六期、氏の生きざまについては、刃見じゅん「収容所から来た遺書」(文春文庫)に詳しい。NHK特集が報道したこともあった。氏の真価は、この書を読了しなればつかみ難いところがあるが、この書が二度の賞を受けていることも、氏の生きざまと無縁ではないだろう。山本氏は第二次大戦後、とらわれてシベリアに送られ、戦犯の烙印を押されて極悪犯収監の獄舎に送り込まれる。生死の境を彷徨するが、収容所を変えられた後は、絶望的な日々を過ごしている仲間たちに、少しでも人間らしい生き方をとり戻させようと、彼等を誘って様々な活動をはじめた。氏は東京外語ロシア語科出身、ロシア語には堪能だったから、それまでも様々な情報を収集、提供してみんなが帰国の希望を失わぬよう努力してきたが、この度は

監視の眼を盗み、様々な場を利用したささやかな文芸活動みたいなのが中心だった。しかし、希望一つもせず、死の影におびえながら生きていた仲間たちの心に、それは何時か明る心の窓を開け、年を重ねるうちに、彼等の生きる燈とも支えともなっていく。氏が瀕死の病床にあつた時さえ、なお枕頭でその活動は続けられた。氏は如何なる苦境にあつても決して希望を捨てない。仲間にもまたそれを語りかける。氏のねばり強く強靱な精神や生き方は、その活動と共に仲間たちの大きな支柱であった。氏の死後、検閲をかいぐるため、長文の遺言を分担暗記してご遺族に届けるといふ、想像を絶することややってのけたのも、仲間たちの氏に対する敬愛や信頼の深さを物語るものであろう。生きる限界状況の中で、多年にわたるこの活動。凄人である。私は仰ぎ見るほどの思いがあつた。同窓にかかるといふ確信をおきたいと思う。

## ご挨拶



校長 杉原 隆

この四月、藤木前校長のご退職にともなつて松江北高校の校長を拝命した杉原でございます。まず、浅学非才の身ではありませんが、伝統ある本校の名を恥かしめないよう懸命に努力いたしますので、双松会会員の皆様にはよろしくご指導ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

松江北高校には、昭和五十七年から七年前社会科の教員として勤務させていただきましたことをご記憶しております。その間には創立百周年記念式典がありましたが、昭和六十二年には双松の一本が枯れ「訣別・新生式典」が行なわれたことを鮮明に記憶しております。着任してみると本年は創立百二十周年記念式典が挙行される年です。準備も始まっておりまして、残された双松の一本は、まるでもう一本の分も生かすぞと言っているかの如く、また根元でかなり大きく育った若木を庇護、養育する使命で自分を奮い立たせているかの

如く、蒼々と健やかな姿で再会を喜んでくれているかのようでした。着任後三カ月がたち、今や一学期も終わらんとしておりますが、皆さんの後輩である生徒諸君は県高校総合体育大会で史上二回目の男女総合三年連続優勝の偉業を成し遂げ、野球部は春の県大会で準決勝まで進出してみせました。文化部も負けじと合唱部、吹奏楽部、華曲部は合同で定期演奏会を開き、県民会館大ホールは超満員の盛況でした。演劇部はギリシアの古典演劇よろしく中庭を野外劇場として大熱演を披露し、観劇した生徒諸君のやんやの喝采を得ました。その他放送部、写真部等少数精鋭の部員からなる部も県大会等で好成績をあげてきています。厳しい学習面の指導を受けながら、自分たちが主体的に編み出した部活動に積極的に参加し、明るく時には余裕の雰囲気を感じさせる生徒諸君の毎日の学園生活には、若者の計り知れないエネルギーに驚嘆すると共に無限の可能性を予感させるものがあり、嬉しい

かぎりです。さて、去る六月十八日第十五期中央教育審議会(中教審)は、国から諮問を受けている「二十一世紀を展望した我が国の教育の在り方について」について、総会への審議報告のまとめを公表いたしました。報告は、これからの児童・生徒に求められる資質や能力は変化の激しい社会を「生きる力」だとし、そのためには彼等や社会全体に「ゆとり」が不可欠だとしております。学校への具体的指針としては教育内容の厳選、カリキュラム編成での各学科の独自性の許容、ボランティア活動等を高校の単位として認定すること等が含まれております。北高においても現在の問題点を洗い出し検討すると共に、来たるべき二十一世紀に最善の高校教育を実践すべくその方策について先生方と議論を開始せねばと考えております。同じ中教審の報告は学校と地域社会、家庭のより強い連携を求めています。県内の県立学校共ども、北高も今年から体育館、グラウンド等の施設を可能な限り地域に開放することにいたしました。伝統の保持と共に新しい北高への変容も責務と考えています。

なお、この人については同期の田平式氏がこの会報の五十九号の六回にわたり紹介をされたことがあった。長男の頭一氏も同窓、新制松高五期、東大を経て現在大学教授の立場に立たれてはいるはずである。

## 前双松会会長

庄司 保親氏

## ご逝去される

去る一月二十四日前双松会会長の庄司氏が逝去されました。庄司氏には新「双松会」始動以来平成三年まで副会長を、その後平成四年から平成六年まで会長をしていただきました。本当に長きにわたり双松会のために多大なる貢献をしていただきました。心よりご冥福をお祈りいたします。なお、今村亀太郎氏による追悼文を第四面に載せております。

## 創立百二十周年記念行事・事業

- 一、記念式典・講演 九月八日  
演題 「小泉八雲と夏目漱石」  
講師 平川祐広(東京大学名誉教授、福岡女学院大特任教授)
- 一、記念学園祭 九月八日〜十日
- 一、百周年以後の十年史発行
- 一、松の木保存育成事業

以上  
十年史は吉儀喜久教諭を編集委員長として総勢十六名の執筆による労作で約三〇〇ページの冊子である。将来編集される何十年史、何百年史のための資料的価値のあることを基本方針として編集してある。主な内容としては、センター試験のスタート、双松の一本が枯れたこと、第二体育館の建設、および総体の三連覇などを載せております。

## 松江北高校創立百二十周年記念 双松会総会のご案内

- 一、日時 平成八年十一月十六日(日)午後二時より
- 一、会場 くにびきメッセ(松江市西川津町)
- 一、日程 午後一・三〇〇〜二・〇〇〇 受付  
二・〇〇〇〜二・三〇〇 記念式典(国際会議場)  
二・三〇〇〜三・三〇〇 記念講演(国際会議場)  
講師 平野邦雄(松中61期)  
横濱市歴史博物館館長
- 三・五〇〇〜四・四〇〇 演奏会(国際会議場)  
北高合唱・ブラスバンド部  
山内ゆかり(北高33期)
- 五・〇〇〇〜六・三〇〇 懇親会(大展示場)
- 一、会費 懇親会会費 八千円
- 一、参加申し込み  
ご出席の方は同封の郵便振込み用紙を用いて、懇親会会費八千円をご送金下さい。このご送金をもって、出席の返事とさせていただきます。払込用紙の受領証をもって会費の領収証とさせていただきます。
- 一、送金後にご欠席の場合は早急に事務局にご連絡下さい。総会の十日前(十一月六日)以後の取り消しについては、誠に勝手ながら、払い戻しはできませんのでご了承下さい。
- 一、なお、式典関係のみご出席の方はハガキ・FAX・電話などで双松会事務局までお申し込み下さい。
- 〒690 松江市奥谷町一六四  
島根県立松江北高校 双松会事務局  
FAX 〇八五二二二一四九七七  
TEL 〇八五二二二一四八八八

平成7年度 双松会会計決算書

収入総額 6,371,192 円
支出総額 3,778,011 円
差引残高 2,593,181 円

Table with 5 columns: 費目, 予算額, 決算額, 増(△)減, 説明. Rows include 入会金, 繰越金, 助成金, 雑収入, 合計.

Table with 5 columns: 費目, 予算額, 決算額, 増(△)減, 説明. Rows include 会議費, 印刷費, 通信事務費, 記念品費, 旅費, 人件費, 雑費, 予備費, 合計.

平成8年度 双松会会計予算書

Table with 5 columns: 費目, 本年度予算, 前年度予算, 増(△)減, 説明. Rows include 入会金, 繰越金, 雑収入, 合計.

Table with 5 columns: 費目, 本年度予算, 前年度予算, 増(△)減, 説明. Rows include 会議費, 印刷費, 通信事務費, 記念品費, 旅費, 人件費, 雑費, 予備費, 合計.

Table titled '通信制同窓会役員名簿' listing members with columns for name, position, and year.

平成7年度 決算書

Table with 5 columns: 費目, 小分類, 予算額, 決算額, 摘要. Rows include 繰越, 会費, 雑収入, 合計.

Table with 5 columns: 費目, 小分類, 予算額, 決算額, 摘要. Rows include 会議費, 事業費, 事務費, 雑費, 予備費, 合計.

Table with 5 columns: 前年度まで, 日7年度分, 合計. Rows include 特別会計(積立金).

平成8年度 予算書

Table with 5 columns: 費目, 小分類, 予算額, 決算額, 摘要. Rows include 繰越, 会費, 雑収入, 合計.

Table with 5 columns: 費目, 小分類, 予算額, 決算額, 摘要. Rows include 会議費, 事業費, 事務費, 雑費, 予備費, 合計.

Table with 5 columns: 前年度まで, 日7年度分, 合計. Rows include 特別会計(積立金).

平成8年度 役員会開催

本年度第一回役員会は、九十余名の出席者を得て去る七月六日に一文字ホテルにおいて開催された。

議題

- 一、平成七年度会務報告
一、平成七年度会計決算報告、並びに監査報告
一、平成七年度版名簿「双松」会計報告、並びに監査報告
一、平成八年度予算案審議
一、百二十年記念事業について
一、その他

議事の進行中に次のような要望・提案がなされました。
「名簿「双松」について、亡くなられた旧職員・同窓生の住所が紙面から抹消されるのは、名簿を利用する会員にとって不都合であり、なんとか残せないか。」

役員会報告

「各期の代表として役員会に出席している幹事について、双松会会則のどこにその位置づけがあるのか。」
「前年については次回発行までにそれが可能かどうか、後者については来年度役員会までに検討することになりました。」

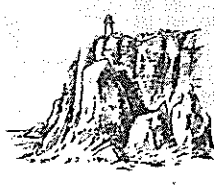
議事の最後に景山幹事より、同窓会館である「起雲館」が建てられて十八年が経過し傷みもひどくなっており、少し早いようだけれども改築について考えなければならぬ時期に来ているので、同窓会での費用の積み立てをしたらどうか、という提案がなされ、賛同が得られました。そして、その具体的な方法については今後の課題として考えていくということになりました。

通信制より

玉木支部がキャンプを行った1件のみ。
なお、地域同窓会はどんな形の卒業生の集まりでも良いから行って頂きたい。10名以上は1万円、以下は5千円を補助としている。
昨年の定通体育会及び体験発表大会報告(吉野)。ご承知のことと思うが、昨年の全国定通体育大会では、ソフトテニスが団体・個人ともに優勝した。団体は3年ぶり2回目であるが、個人は細田・小池が2年連続制覇の快挙を遂げている。体験発表大会は、小川周一が中国地区代表として全国大会(本校としては3年連続出場)に出場し、中学校での不登校を乗り越え、本校に入學して学ぶ喜び・働く喜びを感じて社会人として生きる自信を得るに至った経緯を切々と訴えたが、残念ながら入賞はできなかった。
進路状況報告(西尾)。最近の入学生は若年層が増えている状況にあるが、それに伴って上級学校への進路志向が強まったため、その対応として模試等を受けるチャンスを与えているが、数は多くないものの四大・短大等に進学する生徒も顕著となった。

(3)役員改選。規約により、会長に現在の藤原万也氏、副会長に徳田哲夫氏・野津裕氏を選出、次いで理事・監事については別表の方々に会長より委嘱があった。任期は向う3年間である。よろしくお願したい。なお、これも規約に従い、学校長・教頭を顧問に推し、事務局を従来どおり委嘱して頂いた。
(4)平成8年度予算(藤原会長)。今年の全国定通体育会の補助については、今年の選手数は58名であるが、金額は昨年通り単価一、一〇〇円で誠に微々たる額であるが、気持ちを大いに含めてお贈りしたいということ、異議なく予算も承認。なお今年の選手団は例年のごとく日立生が主であるが、一般生が2

あるが、それに伴って上級学校への進路志向が強まったため、その対応として模試等を受けるチャンスを与えているが、数は多くないものの四大・短大等に進学する生徒も顕著となった。
(5)その他。本年の二〇〇周年記念総会に通信制同窓会からも積極的に出席して頂きたいこと。
懇親会
この日、松江は本来の暑さに戻り、最高気温は31・8度。一時間の審議後のピールののどごしの良さは格別のものだった。役員諸氏にも充分懇談頂き、良い会であった。
※なお、お志しあれば従来の通りご寄付をお願いしたい。本年の7月末までにご寄付頂いた方は次の通り。
内藤政江、柏井日出子、森山峯也、奥谷寿久。
皆様方のご健勝をお祈りします。



平成八年度 総合体育大会

男・女総合優勝
三年連続、十二回目の制覇達成
男子総合は
四年ぶり五回目の優勝

第34回島根県高等学校総合体育大会
は、五月三十一日から六月三日の四日
間、県下各地の会場で、一斉に開催さ
れました。本校からは、男子十四種目
一八七名、女子十三種目一三七名の選
手が出場しました。
結果は予想どおり二位松江南高校に
十一点近くの差をつけ、三連覇を果たす
ことができました。十七の男女各部が
入賞をし、特に、男・女水泳、男子バ
スケットボール、女子漕艇の活躍は見
事でした。

以下、主な成績をあげておきます。
男女総合 優勝(七一・七五点)
男子総合 優勝(四三・七五点)
女子総合 二位(二八・〇〇点)
※男女総合二位 松江南高校
三位 大社高校
四位 大社高校
五位 大社高校
六位 大社高校

- 男子 陸上競技 三位 大社高校
女子 新体操 二位 松江南高校
男子個人 立勝 五位
女子個人 石橋 六位
男子総合 優勝
女子総合 優勝

今春の進路状況

今春の進路状況について、報告いた
します。
本校のモットーである「文武両道の
実践」の中で生徒が学力をつけるのは、
なによりも学校での「授業」が中心の
学習体制を確立することが必要になり
ます。今春の卒業生たちも、昨年6月
の総体の優勝とともに、日々学習を
重視し進路面でも個々の進路希望の実
現を果たし見事に文武両道の実践を果
たしました。

今春の卒業生たちは、旧教育課程最
後の生徒であり、来春から大きく入試
制度も変わるといふ状況の中で受験
となりました。また、ここ数年全国的
に国立大学への希望者が増加傾向に
あり、ほぼ全員が国立大学への進学
を希望する本校の生徒たちにとっては
苦しい状況が強いられるところでは
ありません。昨年度、地元の島根大学には希望の理
工系の学部が増設されましたが、他県
からの受験生の流入がその新設の学部
を中心に著しく、本校生徒にとっては
厳しい状況となりました。

さて、今春の進路状況について、下
記の表に集計結果をまとめました。特
筆されるのは、昨年に引き続き国立
大学の合格者が三〇〇名を超え、私立
大学合格者も五〇〇名を超えたこと
であります。また、東京大学は昨年の
一五名を越え一六名(現役一三名)で
あり、総数、現役での数も過去最高と
なり、また京都・大阪・一橋などの難
関大学への合格者も多く、生徒たちの
健闘が光りました。これらの結果は、
西日本の高校の中でも、トップクラス
のものであります。

記の表に集計結果をまとめました。特
筆されるのは、昨年に引き続き国立
大学の合格者が三〇〇名を超え、私立
大学合格者も五〇〇名を超えたこと
であります。また、東京大学は昨年の
一五名を越え一六名(現役一三名)で
あり、総数、現役での数も過去最高と
なり、また京都・大阪・一橋などの難
関大学への合格者も多く、生徒たちの
健闘が光りました。これらの結果は、
西日本の高校の中でも、トップクラス
のものであります。

平成7年度学校種別合格者延べ数及び就職者数(平成8年4月)

Table with 4 columns: School Type (National, Public, Private, etc.), Year (Heisei 6, 7, 8), and counts for Present, Graduated, and Total.

松 籟 (しょうらい)

最近、歳をとったせい朝
早く目が覚めるようになった。
といった時間である。起きて
物音を立てれば家人に迷惑を
かける。そこでボリュームを
小さく絞ってラジオを聞くこ
とにした。
◆先日、半睡半醒
の状態に聞いていたら、ローヤルとい
う自動車部品を扱っている会社の社長
さんの話が耳に入ってきた。昭和三十
六年の創業で、今では従業員も千数百
人だそうである。◆その社長さんは出
社すると、まず、お湯をたくさん沸か
す。それは社員達が入社して来て掃除
をするための道路・駐車場から、車に
いたるまで、みんなきれいに掃除をす
るのである。◆どうしてそういうこと
を思いついたかという、創業当時、
仕事が多忙ななかまうまく行かず、外で不
愉快なことがあるのか、社員達は会社
に帰って来ると、机を蹴ったり、たた
いたり、荷物を机の上に投げつけたり
したのだそうである。それを見て、こ
んな気持ちではいけない。みんなが穏
やかな、いい気持ちで仕事をみるには
どうすればいいかと考えて始めたのだ
という。それも社員に定着するのには
四年、五年ではだめで十年かかったと
いう話であった。これは一例であって、
すべて、平凡なことをきちんとして、
すべからず、ただ利益を求めただけでなく、たと
え直接利益に結びつかなくても、人間
として当然そうあるべき事を実行する。
―「凡事徹底」がこの社長さんの考え
である。◆それこそ学校教育において
大切なことなのではないだろうか。我が
北高においても日々めざし、実践して
いるところである。教師も生徒も一緒
に掃除をし、物を大切にし、身体を鍛
え、知識や思考力を身につけ、優しい
思いやりや心をもち、ルールを守って
正しく行動する判断力、行動力を養う。
ただいっしょに勉強ができるだけではな
い。「文武両道」とはそういうことであ
ろう。◆高校総体における三連覇
(二度目)も、大学受験における好成
績も、嬉しいことには違いないが、そ
れが、このような土台の上に咲いた花
であってこそ大きな価値があるという
ものではあるまいか。

寄稿

近 況

竹 中 清 一 郎

卒業後十年ぶりの同窓会に出席し
ますと、驚きと喜びと恥ずかしさと懼
れとが入り交じり言葉を失いますが、
交友関係の狭かった私は、これから新
たな生きた関係を作っていくなければ
と思う一方、きまってる、早世した友人
がもしここに居たらと懐想します。し
かしあれこれ思い出そうとしますが、
大抵叶わず、時に思わず声を掛けたく
なるくらいまざまざと現出する瞬間が
あるもの、すぐに像は幾重にも重
なった透明な膜のようなもの、彼方に
あり、時間が経ったことを思い知らさ

それでも尚、あの頃は私なんかよ
りずっと元気だった、などと思ってい
ますと、窓から稲穂の匂いが川風に運
ばれてくる木造の教室が思い出されて
来しました。
「このままで本当にいいのかい。君
たち、立ち止まって考えなればいけ
ない時だってあるんだよ。」
担任の寛厚な折博先生がゆっ
くりと刻むようにおっしゃいました。
三年の半ば頃だったでしょうか。受験
勉強から逃げてはいけな、しかし、

人生の貴重な一瞬をそれだけで顧み
ない若者前にしての痛惜の念に溢れ、
それは先生ご自身の戦争体験を踏まえ
て推察するという誠実なものでした。
松江を離れて三十五年です。亡走三
十五年と言ふべきでしょうか。
ある日、記憶が結びない内にここい
らで足を止めて振り返り、メモ風に書
き留めておこうと言葉を探しています
と、遠くなる一方だった過去が不思議
と次々戻って来ました。松高最後一年
を再び生きたいと彼の像、誰の像と求
める過程で、もし何か発見できたらと
甘い期待も過ります。二、三日休みが
続く週など、第十一期(昭和三十五年)
卒業の私は、一時、今を忘れてワーブ
口に向かっています。
(一九九六年二月)

追憶 庄司保親君

五十期 今村亀太郎

われわれ昭五会員は西暦一九三〇年卒業である。じらい昭五会は毎度毎度痛飲して来た。平成元年の卒業六十年記念大会は出席者三十五名、平成四年の傘寿大会は出席者三十名だったが、平成七年七月一日皆美館での六十五年大会は出席者半減の十六名で、いささか拍子抜けがした。

庄司保親は上半身誠に健在で、脚腰不如意で出席出来ず、前以って私が秘策を示し、当日午後七時ビシヤリ皆美館から彼に電話すると、「毎日毎日今夜を待っていたよ、電話の前へ贈る運んばせ先程から一盃やちよるところだ。」と大変なご機嫌である。続いて細田吉蔵が代って長電話。そして出席者全員が次々としゃべり、かれこれ三十分も話しただろう。とにかく秘策は大成功で、締めくくりに私が「秋になったら有志相つどい酒肴持参で庄司邸へ押しかける。」と言くと、「そげか、待っちゃおで。」と御満悦であった。

だのに秋以来体調かんばしからず、遂に一月二十四日不帰の人となったので算用が全く狂ってしまった。実は三年すると米寿大会、五年経てば二〇〇〇年で赤山卒業七十年、双松会発足以来の大記録達成である。幸いに細田吉蔵や宇山厚等東京組も健在なので赤山の二本松下に集り、庄司の音頭で萬歳三唱を考えていただけに大のはずれになってしまった。

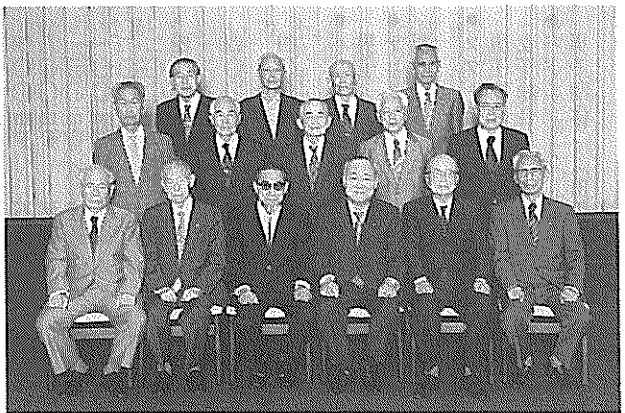
平成八年七月十日 合掌

追って、六十五年大会に遠路福岡から出席した石倉寛治は七月十一日死去。バスケットの来海菜も十一月に、八月三月には庄司の後を追って文士・信太澄夫が米子で死去、山本武敏も去る六

月十七日息子のいる伊豫の松山で逝去した。

合掌

(前列) 今村亀太郎、草光希一、細田吉蔵、渡部満保、石倉寛治、奥原秀夫、(中列) 生谷武三、金榮忠雄、金田英夫、伊藤操、堀江武吉、(後列) 武田徳吉、門脇英雄、柴田達雄、天野達



お尋ねします

昭和十九年に旧制松江中学校に入學したが、学制改革・学区制施行など諸々の理由のため、松江中学校・松江高等学校を卒業しなかった松江中学四年修了者、中途転校者

今まで発行した名簿「双松」には同じような立場の他年入学者についての記述がありながら、昭和十九年入学者方にはこの項目がありませんでした。昭和十九年入学者にも、このような項目に該当する人がいるという指摘を受けましたので、ご存知の方がございましたら双松会事務局まで消息をご連絡下さい。

千 690 松江市奥谷町一六四

鳥根県立松江北高校

双松会事務局宛

FAX 〇八五二二一四九七七

各期だより

同窓会開催報告

松江中学校六十八期生

(昭和二十三年卒業) 在東京会

期日 平成七年十一月二十八日

場所 品川プリンスホテル

出席 二十六名

卒業以来初出席三名があり、各自近況報告のあと積る話に花が咲き、最後に「赤山健児の歌」を合唱、再会を約して解散しました。

出席者には、福岡一名、松江四名、神戸一名あり。

東京都江戸川区中葛西

五二一七一六一七

乃木 一成



松江中学校 六八期生東京會

二十六期卒業

二十周年記念同窓会報告

昭和五十年四月卒業生(普通科二十二期・理科五期)の同窓会を昨年八月十五日に行いました。当日は、旧担任として、石橋克也先

生・細木保興先生・田中達男先生をお招きし、会場のホテル一畑には百十名の懐かしい顔が揃いました。



学園祭のご案内

統一テーマ「衝天」

一二年目の今年、いままさに、天を衝くが如く北高は突き進んでいます。高校総体総合三連覇、見事な企画の定期演奏会、進路目標達成等、ありとあらゆる場面で個人と学校が一体となり積極的に活動しています。さらにこの学園祭をきっかけにして、自分たちの学園祭をきっかけて、自分たちの考え方をもう一度初心に戻し、心の新たな目標に向かって再び突き進む……そんな思いを込めたテーマです。

●文化祭 九月八日(日)・九日(月)

今年の講演には、小泉八雲研究家の平川祐弘氏を招きました。氏は、東京出身で、東京大学教授として比較文学比較文化及びフランス語、イタリア語の講座を担当されました。また、プリンス頓田大学研究員、パリ第七大学教授として外国生活も体験されている、国際派の知識人として有名であります。

八雲との出会いについては、中学の国語の教科書で、松江の朝を描写した八雲の文書で大橋をわたる下駄の音や拍手を打つ光景が印象的であり、中学四年の時に八雲の「読書論」を読み、文章の美しさに魅了されたと言書の中で語っておられます。

「小泉八雲と西洋脱出の夢」「小泉八雲とカミガミの世界」等の著書があり、昭和四十二年以来、松江にも数回いらつちやつて八雲の紀行文と同じ舟路や山路をたどっておられます。今回は、「小泉八雲と夏目漱石」という演題で、八雲の文学の世界を中心にお話していただく予定です。

そのほか、合唱・吹奏楽・箏曲・演劇部などの発表会や各文化部の展示、二年生のルーム出し物、一年生中心の北高フォーラム、家庭クラブのバザーや食堂、映画研究会の映画など多くの催しを計画しています。ご期待下さい。

●体育祭 十日(火)

午前中は各班対抗の競技、午後は三年生による野外劇「ベージュント」、フィナーレはソーダ節と続きます。体育祭を彩る一年生のデコレーションにもご注目下さい。

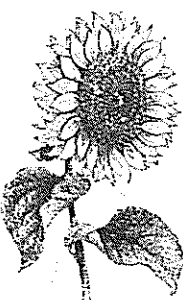
事務局より

事務局(校内幹事)の転出入

―平成八年四月の人事異動―

- (転出)
  - 安部 英輔 高5期 退職
  - 田村 郁夫 高5期 退職
  - 春木 猶由 高5期 退職
  - 遠藤 隆康 高13期 出雲養護学校へ
  - 川上 康男 高10期 浜田商業高校へ
  - 神村 純子 高34期 高速道路整備事務所へ
  - 大村奈穂子 高43期 益田産業高校へ
  - (転入)
    - 山本 幹男 高23期
    - 富田 一志 高33期
    - 上山麻紀子 高45期

編集後記



百周年記念がついこの間であったような気がしておりましたが、十年という年月は早いものでございます。

いよいよ今年は、百二十周年記念の年となりました。双松会の会員の皆様も様々な思いを胸に、この年を迎えておいでのことと存じます。現役の高校生たちの方も、長い歴史の上に新たなページを築くべく、日々勉学に課外活動に励んでいるところでございます。この会報を発行するにあたり、多数の皆様にお忙しい中、原稿をお寄せいただき、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

この会報が会員の皆様の親睦に、少しでもお役に立てれば、幸いに思います。